

「旭川市公園施設長寿命化計画」策定に向けた 公園施設の基本的な考え方について

令和2年度 緑の審議会資料（第1回）

2020年（令和2年）11月25日

- 1 公園施設長寿命化計画について
- 2 旭川市の公園を取巻く現況と課題
- 3 旭川市公園施設長寿命化計画策定に向けて

1 公園施設長寿命化計画について

1-1 公園施設長寿命化計画について

公園施設長寿命化計画とは・・・

目的：老朽化する公園施設を更新していくための年次計画

➡ 計画期間10年を目安

現 在

<第1次>公園施設長寿命化計画（計画期間：平成23年度～令和2年度）

次 期 計 画 （ 見 直 し ）

<第2次>公園施設長寿命化計画（計画期間：令和3年度～令和12年度）

➡ 「身近にある公園」と「規模が大きい公園」の2部構成の計画を検討

○計画を立てる理由

- ・市が所有する膨大な公園施設の長期的な業務量の把握や必要となる予算額の想定が可能
→ 予防保全型管理 or 事後保全型管理の設定による**維持管理コストの縮減**
- ・国の**交付金**を活用する上で、**公園施設長寿命化計画に基づき適切に維持管理された施設**であることが**交付要件**となっている。

1-2 公園施設長寿命化計画について

■ 現行計画の実績【第1次計画(H23~R2)】

大型遊具



一般遊具



計画を進めていく中で、様々な課題が浮き彫りに・・・

1-3 公園施設長寿命化計画について

■現行計画の推進上の課題【第1次計画(H23~R2)】

課題① 進捗率の低さ

- 第1次計画から10年目の今、進捗率が2割程度
- 老朽化する施設に対し、更新が追いついていない現状

課題② 今後が増える老朽化施設に対応できない

- 使用禁止遊具の増加
- 劣化した遊具を使用することによる事故のリスク
→場合によっては管理責任を問われ、訴訟に発展する可能性も

1-4 公園施設長寿命化計画について

■ 次期計画について【第2次計画(R3~R12)】

第2次 旭川市公園施設長寿命化計画の構成

- 「身近にある公園」と「規模が大きい公園」の2部構成で計画策定
→ 公園の役割に応じて、求められるニーズが異なるため

身近にある公園

R2実施

- 街区公園，近隣公園，都市緑地（小規模なもの）などの比較的小さい公園を対象
- ブランコやすべり台など遊具が中心

規模が大きい公園

R3実施

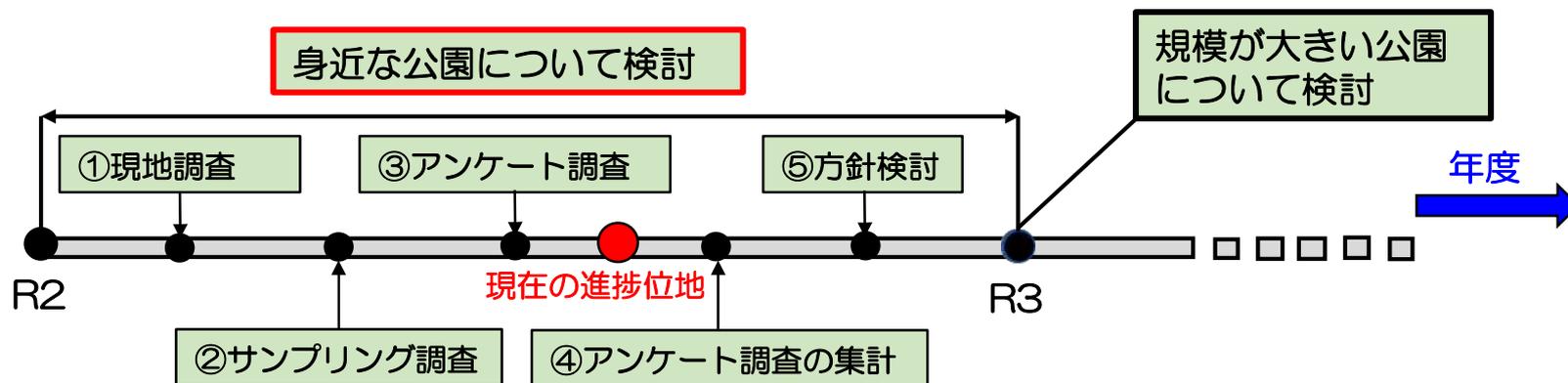
- 地区公園，運動公園，総合公園などの大きい公園を対象
- 遊具以外の施設が中心（サッカー場，テニスコートなどの運動施設）



今回は「身近にある公園」について！！

1-5 公園施設長寿命化計画について

■ 【第2次計画(R3~R12)】公園施設長寿命化計画



○計画を検討する上で、「身近な公園」がどのような人に、どのような利用がされているか把握する必要がある。

→アンケート調査の実施

○身近な公園の利用については、第2次旭川市緑の基本計画のアンケート調査において、子どもの遊びがメインという調査結果が出ている。

アンケート調査の4つの柱

幼稚園・保育園

小学校

町内会

一般市民

- ・一般公園利用者
- ・子育て世代
- ・子育て支援団体 etc...

2 旭川市の公園を取巻く現況と課題

2-1 旭川市の公園を取巻く現況と課題

■現行計画の推進上の課題【第1次計画(H23~R2)】

課題① 進捗率の低さ

- 第1次計画から10年目の今、進捗率が2割程度
- 老朽化する施設に対し、更新が追いついていない現状

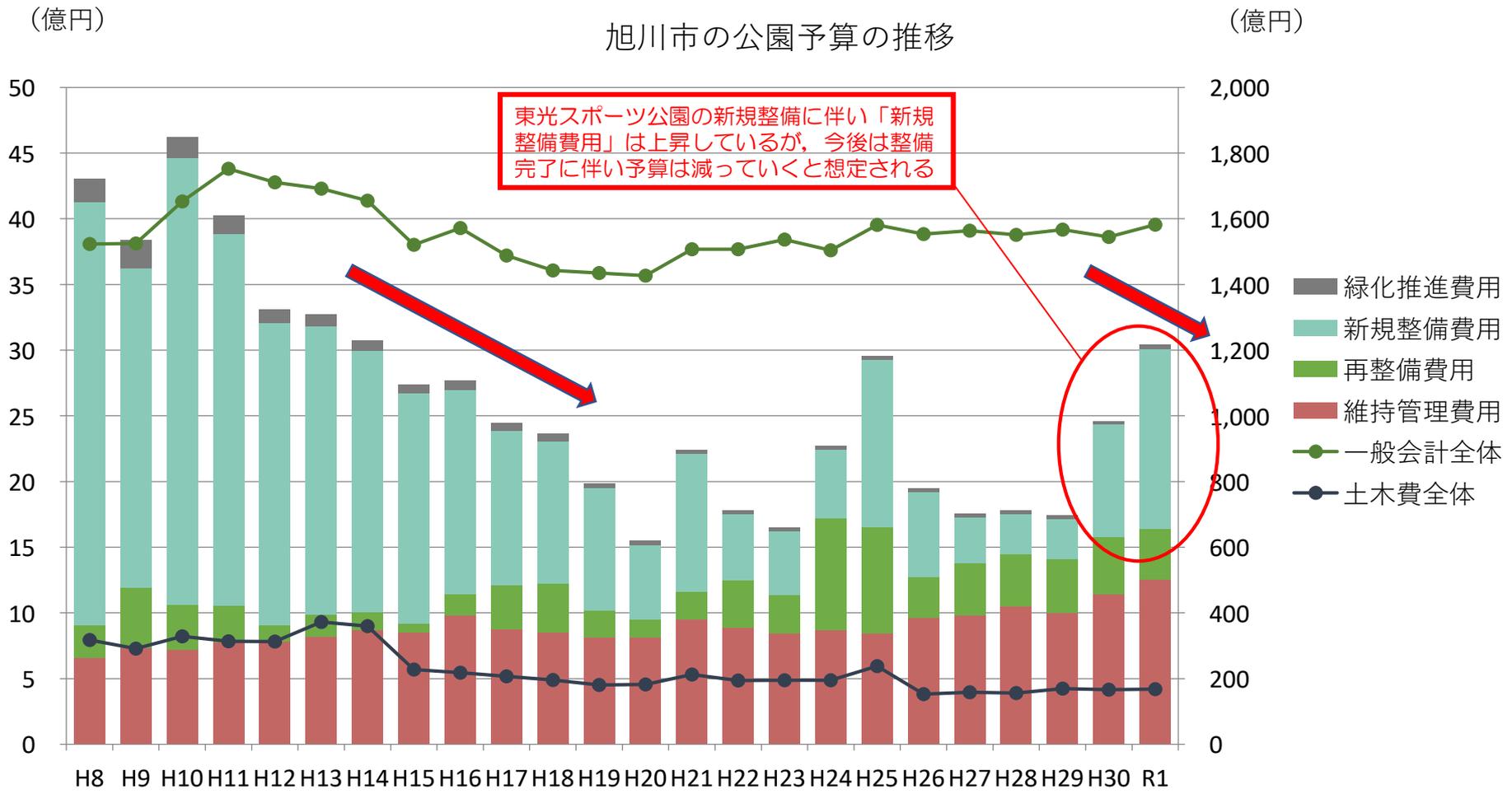
課題② 今後が増える老朽化施設に対応できない

- 使用禁止遊具の増加
- 劣化した遊具を使用することによる事故のリスク
→場合によっては管理責任を問われ、訴訟に発展する可能性も

2-2 旭川市の公園を取巻く現況と課題

■ 旭川市の公園予算の推移

- 公園予算は20年前に比べ縮減傾向で、現在は30億円規模である。
- 維持管理の割合が増えている。

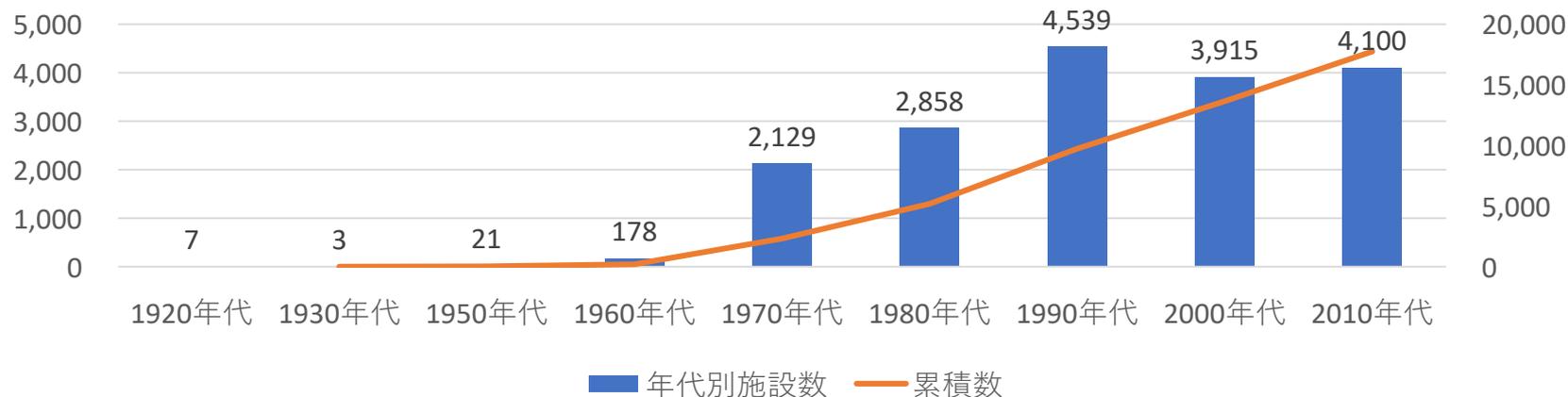


2-3 旭川市の公園を取巻く現況と課題

■ 更新が必要な予防保全施設の増加

- 予防保全施設の累積数は、年々増加しており、更新が必要になっている。
- 更新コストは2030年までに約284億円を要する試算となっている。

旭川市の公園の予防保全施設数の推移



○ 予防保全施設更新コストの現状と試算

2011～2019年までに更新した公園施設数	1,564施設
更新費	約20億円



2030年までに設置から25年以上を経過する公園施設数	11,956施設
更新費（試算）	約284億円

2-4 旭川市の公園を取巻く現況と課題

■現行計画の推進上の課題【第1次計画(H23~R2)】

課題① 進捗率の低さ

- 第1次計画から10年目の今、進捗率が2割程度
- 老朽化する施設に対し、更新が追いついていない現状

課題② 今後が増える老朽化施設に対応できない

- 使用禁止遊具，老朽化した外柵や公園照明などの一般施設の増加
- 劣化した施設を使用することによる事故のリスク
→場合によっては管理責任を問われ，訴訟に発展する可能性も

2-5 旭川市の公園を取巻く現況と課題

■老朽化が進む公園施設

○老朽化が進行しているが、対応できていない公園施設



2-6 旭川市の公園を取巻く現況と課題

■ 旭川市の公園建設数と推移

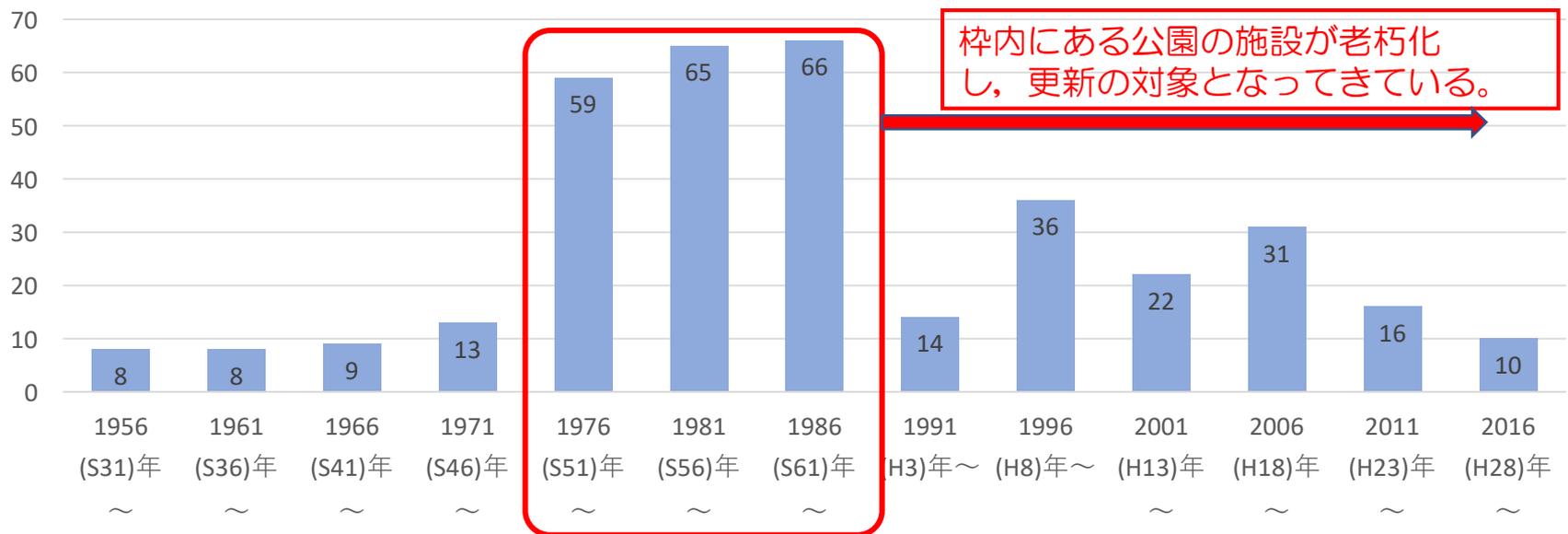
- 旭川市では、1956（昭和31）年にはじめて公園が建設され、1970～1980年代には公園数が急増した。ピークは1979（昭和54）年の29か所である。
- 1995（平成7）年以降は、減少傾向にある。

年代ごとの時代背景等

- 市街化区域は、内環状道路の外側を中心として**昭和51～55（1976～1980）年頃に急激に拡大**しましたが、**人口のピークを迎えた平成7年**以降は拡大範囲も少なく、近年10年間では新たな市街地の拡大は行われていません。（立地適正化計画より）

(建設数)

旭川市の都市公園建設数の推移（5年ごと）



枠内にある公園の施設が老朽化し、更新の対象となってきている。

2-7 旭川市の公園を取巻く現況と課題

■次期計画で解決したい点【第2次計画(R3~R12)】

課題① 第1次計画で見た課題

先程紹介
(P10~P15)

課題② 時代と共に変化する社会構造（人口問題）

課題③ 将来を見据えた公園のあり方

→ 公園の機能の重複・適正な配置

市内に722ある公園・・・
課題の解決に向けては「公園の役割」
に応じた整理が必要！！

2-8 旭川市の公園を取巻く現況と課題

■次期計画で解決したい点【第2次計画(R3~R12)】

課題① 第1次計画で見た課題

課題② 次代と共に変化する社会構造（人口問題）

課題③ 将来を見据えた公園のあり方

→ 公園の機能の重複・適正な配置

市内に722ある公園・・・
課題の解決に向けては「公園の役割」
に応じた整理が必要！！

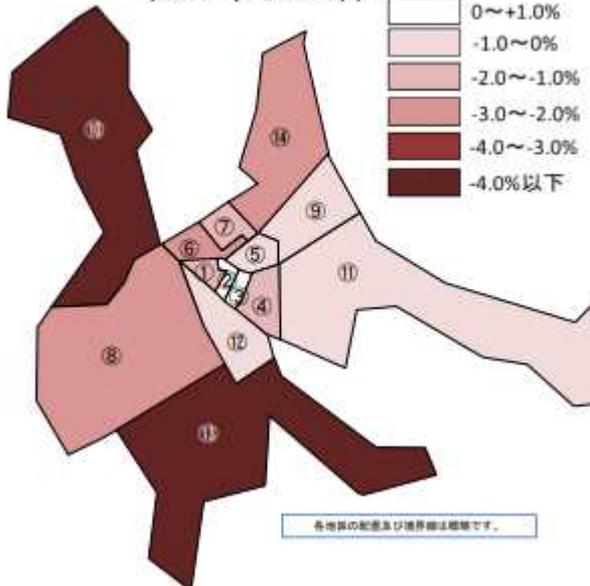
2-9 旭川市の公園を取巻く現況と課題

■ 都心部以外での人口の減少

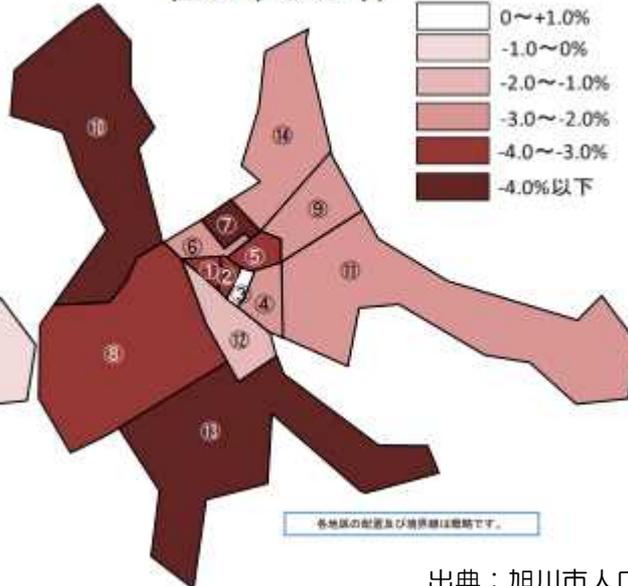
○地域別人口構成の推移

- 地区別の人口は、2010年と2014年の比較で、中央と大成の2地区で増加、他12地区は減少、2014年と2018年の比較では大成のみ増加で他は減少となっており、減少率では西神楽、江丹別で特に大きい。
- 2014年から2018年にかけて14地区中10地区で減少率が大きくなっている。

図表 4-(1)-40 市内地区別人口増増減率
(2010年-2014年)



図表 4-(1)-41 市内地区別人口増増減率
(2014年-2018年)



2-10 旭川市の公園を取巻く現況と課題

■ 全市的な児童数・幼児数の減少

○ 児童数と幼児数の推移と推計

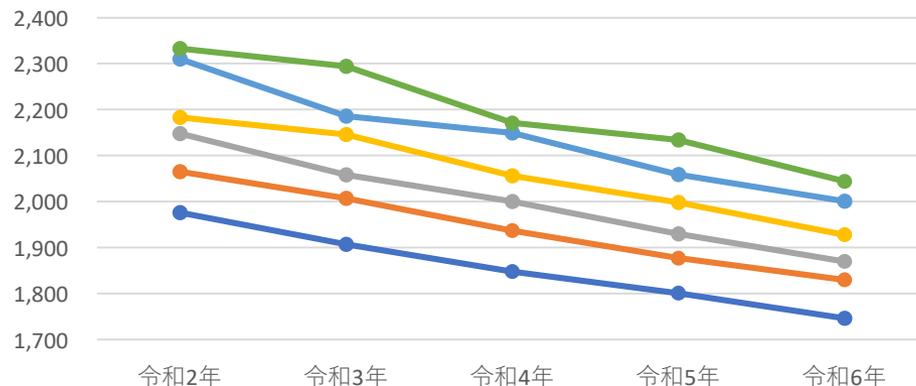
- 児童数の推移をブロック別にみると、平成26年から令和元年までに全ブロックで減少している。（下図-左）
- 就学前児童（0～5歳）は、今後5年間で約1～2割、減少していくことが推定されている。（下図-右）

ブロック毎の児童数の推移（推計）



- ⑤神楽・西神楽ブロック
 - ④神居・江丹別ブロック
 - ③北星・春光・東鷹栖ブロック
 - ②新旭川・永山ブロック
 - ①中央・東・東旭川ブロック
- 出典：小中学校適正配置計画（基本方針）

旭川市の就学前児童の人口推計



- 0歳
- 1歳
- 2歳
- 3歳
- 4歳
- 5歳

出典：第2期旭川市子ども・子育てプラン
（直近5か年度の住民基本台帳の数値より）

2-11 旭川市の公園を取巻く現況と課題

■次期計画で解決したい点【第2次計画(R3~R12)】

課題① 第1次計画で見えた課題

課題② 次代と共に変化する社会構造（人口問題）

課題③ 将来を見据えた公園の在り方

→ 公園の機能の重複・適正な配置

市内に722ある公園・・・
課題の解決に向けては「公園の役割」
に応じた整理が必要！！

2-12 旭川市の公園を取巻く現況と課題

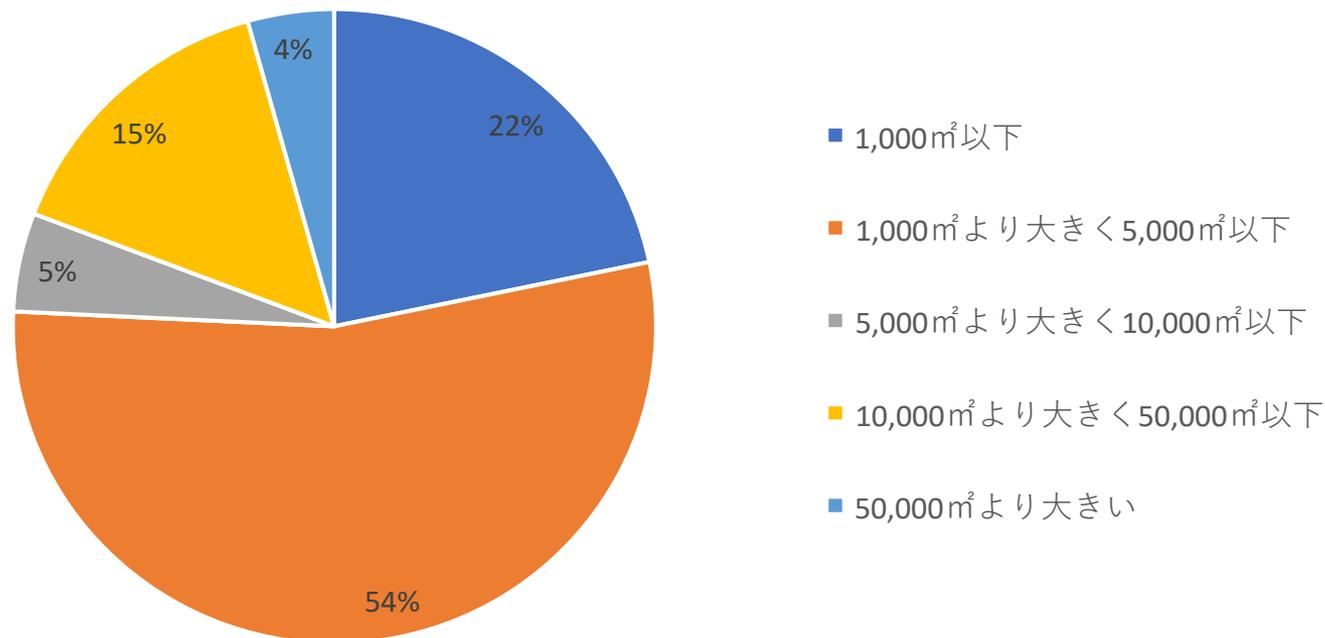
■ 1,000㎡未満の狭小公園は全体の約2割

○ 1000㎡未満の狭小公園の占める割合

- 旭川市内の公園（児童遊園含む）722カ所中、379カ所（約52%）が1000㎡以下。
- 旭川市内の公園（児童遊園含まない）437カ所中、95カ所（約22%）が1000㎡以下。

旭川市の公園（児童遊園を含まない）

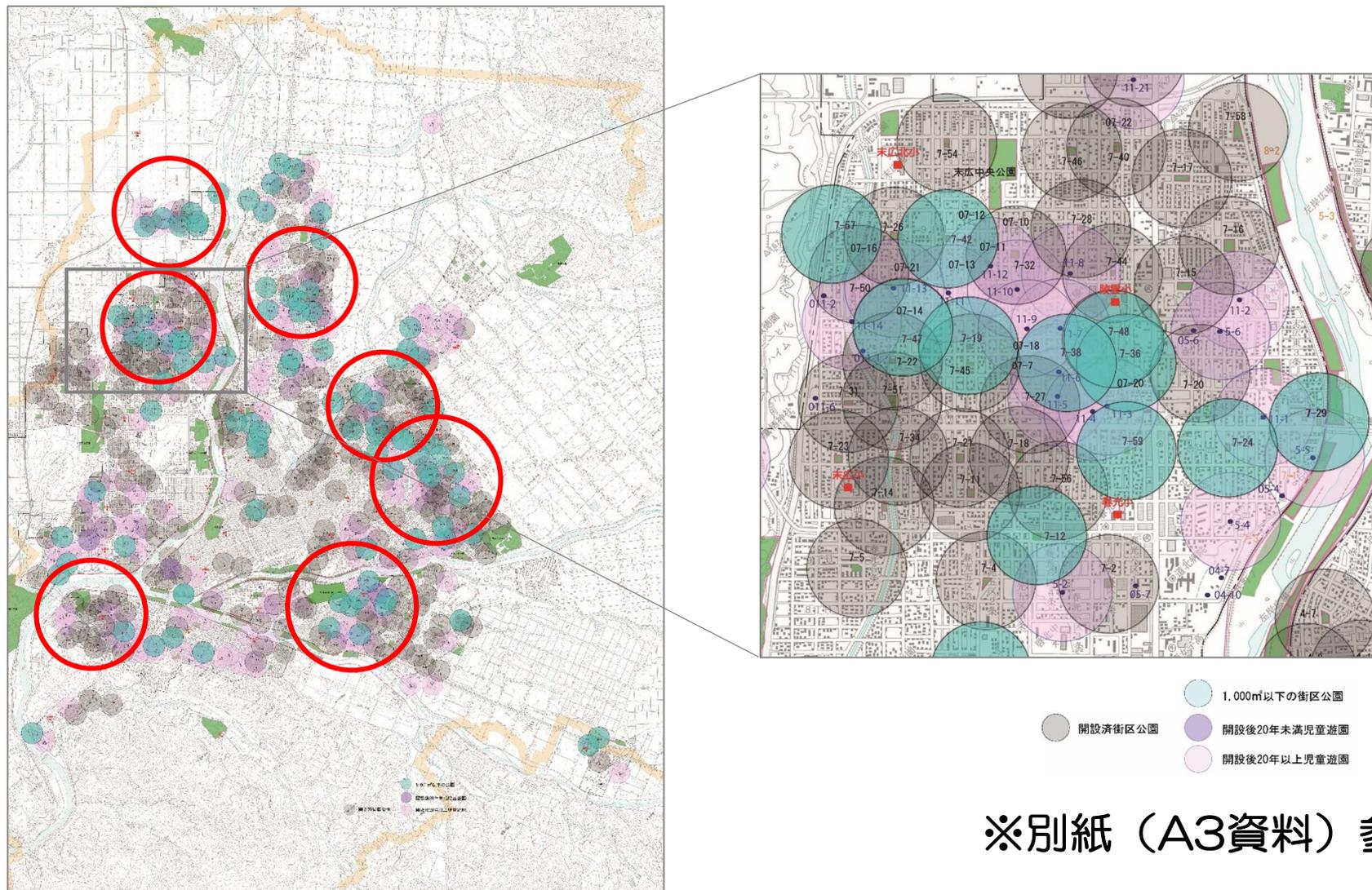
の面積別割合



2-13 旭川市の公園を取巻く現況と課題

■身近な公園の密集エリアが存在する

○街区公園や児童遊園などの身近な公園の密集エリア



※別紙（A3資料）参照

2-14 旭川市の公園を取巻く現況と課題

■次期計画で解決したい点【第2次計画(R3~R12)】

課題① 第1次計画で見えた課題

課題② 次代と共に変化する社会構造（人口問題）

課題③ 将来を見据えた公園の在り方

→ 公園の機能の重複・適正な配置

市内に722ある公園・・・
課題の解決に向けては「公園の役割」
に応じた整理が必要！！

3 旭川市公園施設長寿命化計画策定に向けて

3-1 旭川市公園施設長寿命化計画策定の方向性

■市民アンケート調査

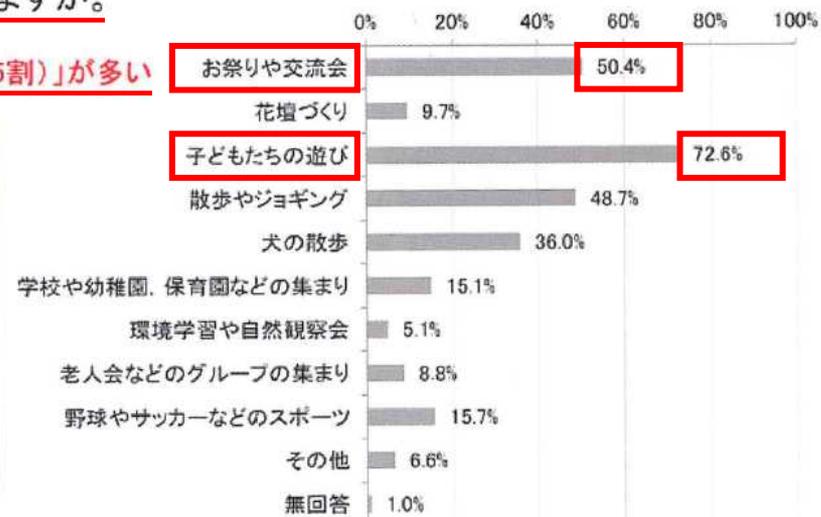
○第2次緑の基本計画における身近な公園の利用傾向

(2)上の(1)の項目で、「1 活用されている」「2 どちらかといえば、活用されている」を選んだ方にお聞きします。
身近な公園は、普段どのように活用されていますか。

複数回答 (1)が1or2

◆「子どもたちの遊び(7割)」「お祭りや交流会(5割)」が多い

	(回答数)	(割合)
○ お祭りや交流会	336	50.4%
花壇づくり	65	9.7%
◎ 子どもたちの遊び	484	72.6%
散歩やジョギング	325	48.7%
犬の散歩	240	36.0%
学校や幼稚園、保育園などの集まり	101	15.1%
× 環境学習や自然観察会	34	5.1%
老人会などのグループの集まり	59	8.8%
野球やサッカーなどのスポーツ	105	15.7%
その他	44	6.6%
無回答	7	1.0%
回答者数	667	269.9%



出典：第2次旭川市緑の基本計画

身近な公園のメインの利用者である「子ども」や「町内会」にアンケート調査を行う必要性がある。

3-2 旭川市公園施設長寿命化計画策定の方向性

■市民アンケート調査

○市民等アンケート調査の概要

- 期 間：令和2年10月19日～令和2年11月15日（町内会11月30日）
- 実施対象：市民，小学校（教諭），幼稚園・保育園（幼稚園教諭・保育士），町内会
- 実施方法：ウェブアンケート，用紙配布（町内会）
- 回 収：令和2年11月15日現在
 - 市民（市職員含む）：1,123件
 - 小学校：52件 回収率：98%
 - 保育園・幼稚園：64件 回収率：52%
 - 町内会：468件 回収率：24%（暫定値 〆は11/30）

3-3 旭川市公園施設長寿命化計画策定に向けて

■市民アンケート調査

○市民アンケート調査の参考となる意見の紹介（1）

一般市民向け

- 遊具が無くても、**広く子供達がのびのびと遊べる(簡易な球技や走り回るなど)場所であれば良い**。海外(アジア以外)の公園を見てもベンチと樹木だけなど、遊具の設置はあまり見ない。(40代 春光在住)
- **選択と集中**が必要ではないか。児童公園などは最低限の遊具を維持し、使用状況によっては撤去も必要。一方、常磐公園の遊具は30年以上、維持はされているが更新されていない。**必要な箇所には投資するべき**では。(40代 西地区在住)
- **遊具を多少減らしてもいいので子供が遊びたいと思える綺麗な公園を作っ**て欲しいです。ボロボロで汚く手入れのされてない公園が多くそんな公園では誰も使用しません。(30代 末広在住)
- ある程度の遊具も必要だが、**子どもがボール遊びを思い切りできるスペース**をもっと確保してもらいたい。(40代 春光在住)

3-4 旭川市公園施設長寿命化計画策定に向けて

■市民アンケート調査

○市民アンケート調査の参考となる意見の紹介（2）

小学校向け

- ・公園にある施設の修繕や新調に関して、学校が利用する場合の要望を聞いていただいていると、学校教育において、より効果的に活用することができます。（市内A小学校）
- ・公園の維持費や必要性などを管理側から地域に発信していくべきである。少子化または管理ができなくなっていく中で、このままでは公園はなくなってしまうのではないか。（市内D小学校）

幼稚園・保育園向け

- ・保育園の周辺には公園・児童遊園が複数あり、その日その日で行く場所を変えることができ便利である。できるだけ数は維持してほしいが、一つ一つが小さいので、大人数で行くことができない。大きい公園があるととても助かります。（市内S保育園）
- ・住宅地の中に、遊具も何もない家一件位の土地の公園が最近必ず作られるが、子ども同士で遊ぶには狭すぎて、鬼ごっこもボール遊びも自然物に触れる等何も出来ない。あまり有効なものにみえない。（市内R保育園）

3-5 旭川市公園施設長寿命化計画策定に向けて

■市民アンケート調査

○アンケート調査の参考となる意見のキーワード

- ・子どもがのびのび遊べる広い大きな公園
- ・限られた予算での選択と集中
- ・学校や地域との協働

キーワードを解釈すると・・・



これからの公園に求められることは・・・

- ・小さい公園をたくさん作る時代から、広い大きな公園を求めるニーズの変化
- ・限られた予算でどうすれば公園利用者の満足度を上げられるか？
- ・単純に今あるものを更新（すべり台→すべり台）するのではなく、その地域が何を求めているかニーズを調査し、地域にあった公園整備が必要？

3-6 旭川市公園施設長寿命化計画策定に向けて

■市民アンケート調査速報

○地域のニーズを踏まえた今後の公園整備の1つの考え方の例

- **限られた予算**の中，全ての施設を更新することは現実的に難しい。
- 街区公園等の住区基幹公園について「**核となる公園（利用者が多い公園）**」を設定し，その公園を充実させることで幼稚園や保育園，町内会などの**地域のニーズ**に應える。
- 整備を検討する上で，現在の公園の配置状況と，地域のニーズとの2つの条件のマッチが必要不可欠
- 話が発展すれば，段階的に模索し，方向付けは可能か？

→他自治体では，先進的な取り組みを実施しているところもある。

3-7 旭川市公園施設長寿命化計画策定に向けて

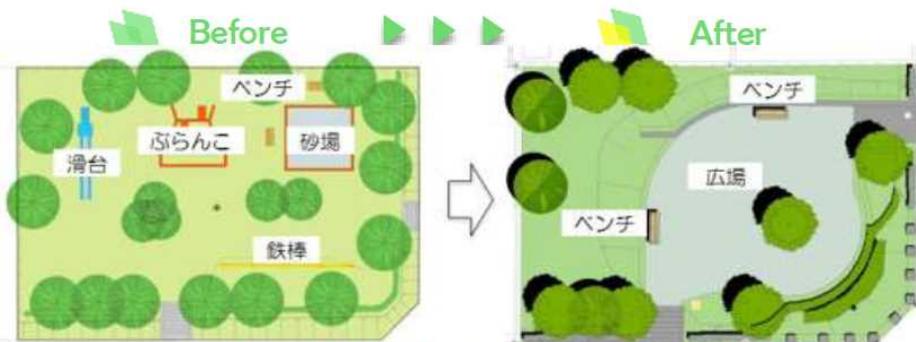
■ (1) 他都市の参考事例の紹介 (札幌市)

機能再編

機能分担で公園の多機能化と施設量の低減を両立！

藻岩ころころ公園

- 札幌市では、平成20年度から機能分担の考えによる公園再整備を実施し、平成26年度までに40の狭小公園(1,000㎡未満)において再整備を実施。
- 同一誘致圏内にある複数の公園において機能を分担することにより、**様々なニーズに対応するとともに、施設総量の削減による維持管理コスト縮減**を可能に。



【狭小公園の再整備事例(藻岩ころころ公園)】

【効果】機能重複の解消

- ・かつては面積の大小に関わらず、遊戯施設が主体の公園が多数であったが、面積の小さい公園が休憩施設、広場主体などとなることで、機能重複が解消され、**新たなニーズに応えることが可能となった。**



【地域の中心となる公園の再整備(北の沢山の子公園 遊具広場)】

- 同一誘致圏内にある2つの街区公園において、機能分担による全面再整備を実施。
- 北の沢山の子公園(4,398㎡)は、地域の中心的な公園と捉え、遊具など**レクリエーション機能主体の公園**に再整備。
- 藻岩ころころ公園(338㎡)は、遊具などを撤去し、休憩施設に**機能を絞って再整備(機能特化)**。



【効果】管理費の縮減

- ・機能重複の解消により、**施設量が低減されたため、維持管理コストの削減につながった。**
- ・40公園で再整備を実施した結果、遊具数が整備前の134基から65基へと半減し、**単年度当たりの維持管理コストも約600万円から約290万円に半減した。**

ポイント

【機能特化対象公園】対象公園の誘致圏(半径250m)が、他公園の誘致圏でほぼ全て覆われることが条件。
【市民意見の反映】計画段階で説明会等を開催。地元住民の意見を反映するほか、機能分担の考えについての承をいただいたうえで実施している。このため、狭小公園であっても地域ニーズが高ければ、遊具を残すケースもある。

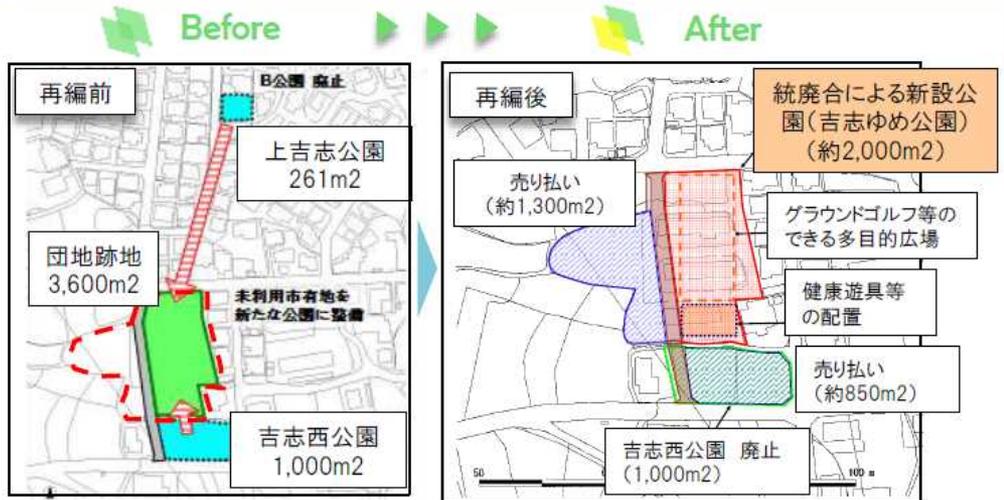
■ (2) 他都市の参考事例の紹介 (北九州市)

施設再編

公園をまとめてもっと使いやすく！

吉志ゆめ公園

- 北九州市では、広場が小さく、段差があるなどにより利用が限られる小規模公園が存在。
- 住民の声を受け、遊休市有地(団地跡地)を活用した小規模公園の集約・再編により、公園利用者のニーズに合った「吉志ゆめ公園」を設置。(2公園廃止→1公園新設)
- 子どもから高齢者まで利用できる公園に生まれ変わり、利用者からも満足の声。



【効果】ストック再編による魅力向上



<利用者の声:自治会長>

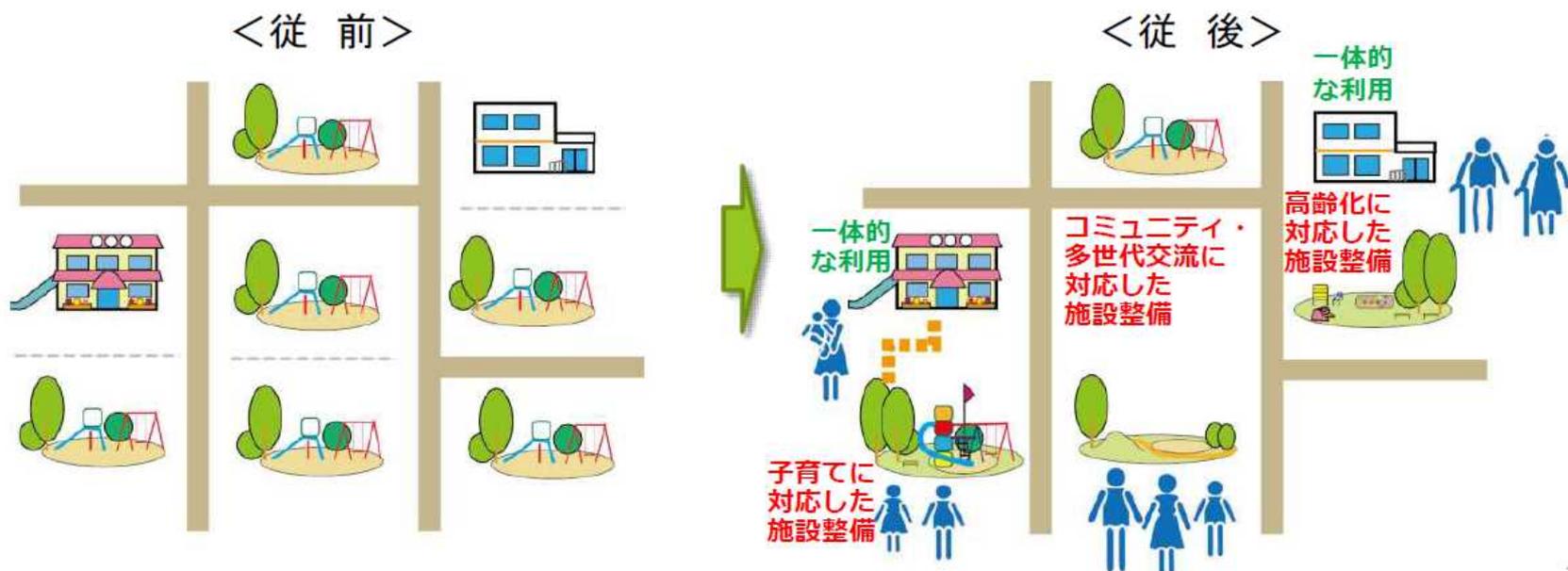
- ・週3回のグランドゴルフや朝夕のウォーキングに活発に利用されており、住民のレクリエーションや健康づくりにとても役立っている。
- ・休みの日や夕方には、小学生たちが広々とした広場で遊ぶ姿が、多く見られるようになった。
- ・公園での花づくりや定期的な清掃などを地域の行事として行い、自治会の活動が活発化した。地域の美化や絆づくりに満足している。

ポイント 【計画との整合】北九州市では、緑の基本計画で小学校区単位で整備目標値(1㎡/人)を定め、目標値を上回る場合は原則として新たな公園の整備を行わないこととしており、吉志ゆめ公園のある小学校区では目標値を上回っていた。
 【住民との合意形成】市民の要望を踏まえ、ニーズに合った新たな公園を市営住宅跡地に整備する代わりに2公園を廃止。

■ (3) 他都市の参考事例の紹介 (滝川市)

■ 都市公園の機能集約・再編について

- ・市街地のエリアごとに、人口の動向や施設の立地を把握したうえで、公園のあり方について検討し、現況の公園整備状況と地域の特性を重ね合わせて、公園の機能見直し、立地の再編を検討します。
- ・検討にあたってはコンパクトな都市づくりの考え方に連動し、都市機能の集約により人が集まりやすくなるエリア、既存の学校や子育て支援施設、福祉施設等との一体的な利用の相乗効果が得られるエリアなどを集約先として想定します。
- ・公園集約の跡地となる箇所では、住民のコミュニティスペースなど、地域の創意工夫で利用・管理できるスペースとしての利活用を視野に入れて地域とともに検討します。



■まとめ

- 様々な自治体において、厳しい財政事情の中、公園を維持していくため、地域のニーズに応えるために多岐にわたる取り組みを行っている。
- 今回の市民アンケート結果や、本市の公園が抱える課題、他都市の例も参考にしながら、様々な要素を考慮した中で、将来にわたって持続可能な公園施設のあり方について検討を行っていく。
- 第2回緑の審議会においては、市民アンケートの結果や今後の具体的な計画方針案などを報告していきたい。